

科目	心理統計法Ⅱ	単位数	2
担当教員	多田 美香里		
履修対象	心理科学科 2 年春学期		
概要と目的	心理統計法Ⅰに続いて心理学の研究で用いる基本的な統計手法を学ぶ。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 心理学で用いられる統計手法について概説できるようになる。 (2) 論文の統計的記述を抵抗なく読むようになる。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 基本的な心理統計の内容を理解し、データを用いて実証的に考えるようになる。 (2) ニュースやインターネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 心理学的問題に対して適合した統計的手法を自ら選択できる。		
授業計画			
1	心理学で用いられる統計手法について概説するとともに、データを用いた実証的な考えについて議論する。		
2	カイ2乗検定(1) / 適合度の検定		
3	カイ2乗検定(2) / 独立性の検定		
4	復習 / カイ2乗検定を用いた研究事例		
5	t検定 / 独立な2群の平均値差に関するt検定(1)		
6	t検定 / 独立な2群の平均値差に関するt検定(2)		
7	t検定 / 対応のあるt検定		
8	復習 / t検定を用いた研究事例		
9	分散分析 / 1要因分散分析(1)		
10	分散分析 / 1要因分散分析(2)		
11	復習 / 1要因分散分析を用いた研究事例		
12	分散分析 / 2要因分散分析(1)		
13	分散分析 / 2要因分散分析(2)		
14	分散分析 / 2要因分散分析(3)		
15	復習 / 2要因分散分析を用いた研究事例、まとめ / その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習		
授業形態 / 具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の演習や書き込み式の課題、コメントの記入を行う。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2,800円
参考書	森敏昭・吉田寿夫(1990) 心理学のためのデータ解析テクニカルブック北大路書房 田中敏・山際勇一郎(1992) ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法教育出版 山内光哉(2009) 心理・教育のための統計法サイエンス社		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学で用いる基本的な統計手法について理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度(積極性・コメントの妥当性)10点、課題(宿題、小テスト、小レポート、コメント)の達成度40点、学期末試験50点とする。		
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。		
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてくること(1時間程度)。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行うこと(1時間程度)。		
備考	毎回の宿題や課題については解答例や採点結果を示すため、各自の学習の参考にする	No.	PY621012